

ろくちょう
六調
(二揚げ)

1. サマーヨいく にじゅうに さん さん幾つか二十二か三か(サヨさん三か) やがてにじゅうご ん二十五のとし生まれ年
(ヨイヤナーヨイヤサマーヨ)
2. お前まえが振袖ふりそでと私わたしが袖そでと(サヨそで袖と) 二つ併せてふた あわ四つよの袖そで
3. 嬉うれし嬉うれしや若松わかまつ様さまよ(サヨさま様よ) 枝えだも栄さかえて葉はも茂しげる
4. 人ひとの結むすびは枯木かれきの枝えだを(サヨえだ枝を) 登のぼり下くだりの危あぶなさよ
5. 踊おどれ踊おどれよ品しな良よく踊おどれ(サヨおど踊れ) 品しなの良よい子こは嫁よめに取とる
6. 君きみとわしはゃとは羽織はおりの緒ひもよ(サヨひも緒よ) しかと結むすんで胸むねの上うえ
7. 君きみは百才ひゃくさいわしゃ九十九くじゅうくまで(サヨく九まで) ともしらがに白髪はの生はえるまで
8. 天下てんか大平治たいへいむる御代おさに(サヨみよ御代に) 鶴みよと亀みよとの舞つるい遊かめぶ

< 解説 >

本島のカチャーシーに相当するもので、八重山の祝宴にこの曲は欠かせません。静かで素朴な唄が多い八重山の中では珍しくにぎやかな曲です。九州地方から伝播したものを受け入れたため、歌詞も曲も大和風になっています。3本の弦を上下にかきならすので「六調」の名がついたともいわれています。

< 八重山 >

